

一般財団法人全国大学実務教育協会
第5回「能動的学修の教員研修リーダー講座」
—学びの技法・授業デザイン・学修成果の評価—
ご案内

開催趣旨

◇加速する大学教育の質的転換

いまわが国の高等教育は、従来の知識の伝達・注入を中心とした学修から学修者主体の能動的学修（アクティブラーニング）へと質的転換を求められています。文部科学省で検討され閣議決定された「教育振興基本計画」の方針の下、国の補助事業に教育の質的転換、グローバル化などの組織的な取組みに対する支援が展開されてきました。また、他方では、3つのポリシーの義務化に伴い大学の内部質保証システムの構築が求められ、第三期の認証評価において重点項目として取り上げられ、大学教育の質的転換が加速化されることになりました。

◇能動的学修と本協会のこれまでの取組み

能動的学修は質的転換の重要な柱となるものですが、本協会では早くから取り組んできました。

本協会が平成25年度から新設した「実践キャリア実務士」（職業横断的な社会的職業的自立に必要なキャリア・実務実践力の教育課程）のほか、本協会の資格の能動的学修を基本とするもの多くが、その中核に「総合的实践実務」の学修を据えています。

◇能動的学修の成果を紡ぎ出す核となる教員の講座の開発

あらゆる科目において能動的学修への転換が必要になっていますが、最も大きな課題になるのは担当する教員が少ないという問題です。研究志向で養成されてきた日本の教員において、能動的学修を効果的に実践できる人は決して多くありません。そのノウハウが蓄積され、教員同士で共有されていないという課題もあります。そこで本協会では、この課題に資する「能動的学修の教員研修リーダー講座」を開発し、平成26年度から実施してすでに100名を越える参加者を得ております。

◇能動的学修を体験できる講座内容

本講座では、豊富な事例のもと「学びの技法」と「授業デザイン」を中心に実践的な学びの場を提供します。更に「学修成果の評価」につきましては、教育の質保証の上で重要な役割を果たすルーブリックに基づく自己評価を含めて講座の構成そのものから学べる形になっています。そして、数々の実践的な学びから、教員としての授業運営の仕方や能動的学修支援のあり方を体得することができる内容になっています。

プログラム構成

1. 2段階構成のプログラム

能動的学修の教員研修リーダー講座のプログラムは、大きくは2段階の構成になっています。

- ・第1段階は事前に配付されるテキストを精読していただきます。
- ・第2段階では集合研修を8月25日(土)、9月22日(土)、10月27日(土)の3回実施します。
(同一参加者が3回とも参加されることを前提としています)

詳細は「能動的学修の教員研修リーダー講座」のプログラムをご覧ください。

集合研修参加にあたってはテキストの理解を確実にするために、参加者が自らテキストの内容に沿った理解促進テストの解答と新たな作問の上で参加していただきます。

2. テキスト『能動的学修の教員研修リーダー講座』の内容

テキストの内容は以下の構成で、実践的な内容になっています。

- 1 能動的学修とは
- 2 学修者から見た学びの技法
- 3 体験学修の方法と評価
- 4 能動的学修の実践
 - ①学修デザインの方法(講義、演習、学内外)
 - ②能動的学修の運営について
 - ③学修成果の評価について
- 5 新たな学びの理念と教職員の役割

3. 講座の進め方

- ・集合研修プログラムは能動的学修の基本となる学びの技法を学修する第1回の「基礎」、個別の授業をデザインし、具体的な活かし方を学修する第2回の「実践応用」、そして年間の学修プログラムを視野に入れて演習する「総合演習」の3部構成です。
- ・各回とも講座進行シート(実践事例を含む。)によって進められます。
- ・参加者には毎回課題が出されます。
- ・第1回の前にはテキストの精読と理解促進テストの解答および問題の作成
- ・第2回の前には第1回で学んだ学びの技法を実際に現場で実践した結果の報告
- ・第3回の前には総合演習に向けての能動的学修授業モデルの練習

4. 講座の特色

- *能動的学修をテーマにしていますので、本プログラムは参加者が主体的に参画し能動的学修が学生の立場で実感できるように運営されます。
- *各種技法の理論的背景を理解した上で上手に運用できるノウハウを学びます。
- *学びの技法や授業デザインの事例を多数紹介するとともに「そのまま使える」形に練り上げていく実践の場にもなります。

- *能動的学修の教員用の評価表(ルーブリック)に基づく自己評価を取り入れていきます。
- *参加者同士の経験談や実践事例を交換する場も設けますので、能動的学修について少し経験のある方や全くの初心者の方でも新たな発見があり、自信をつける場にもなります。
- *能動的学修について情報交換や協働活動が出来るように参加者同士のネットワークを構築します。そのため、講座修了者を対象に平成27年度から能動的学修の教員研究会を開催しています。平成30年度も実施いたします。

開催要領

1. 日時

- | | | |
|-----|-----------------|------------|
| 第1回 | 平成30年 8月25日(土) | 9:30~17:30 |
| 第2回 | 平成30年 9月22日(土) | 9:30~17:30 |
| 第3回 | 平成30年 10月27日(土) | 9:30~17:00 |

2. 会場

- | | |
|-------|--|
| 第1~2回 | アルカディア市ヶ谷(私学会館)
東京都千代田区九段北4-2-25 (tel 03-3261-9921)
JR・地下鉄「市ヶ谷」駅徒歩1分 |
| 第3回 | 東京ガーデンパレス
東京都文京区湯島1-7-5 (tel 03-3813-6211)
JR・地下鉄「お茶の水」駅徒歩6分 |

*第1~2回と第3回の会場が異なることに注意して下さい。

3. 研修担当者

清水 一彦
大宮 登
関 憲治

4. 事前学習 お申込みの方に事前にテキストをお届けします。精読の上ご参加ください。

5. 参加費 120,000円(消費税込み)(お一人、昼食、資料代含む。)

6. その他 ・1校2名の参加をお勧めします。(情報共有、学内での実践活動に有効)
・講座修了者には「能動的学修の教員研修リーダー講座」修了認定証を発行します。

7. 参加申込 ・別添の参加申込書の要領をご覧ください。

・申し込み期限 平成30年5月11日(金)

「能動的学修の教員研修リーダー講座」のプログラム

- ・演習、討議等のプログラムを体験することで参加者が能動的学修を実感できるよう設計されています。
- ・少し経験のある方も新たな発見が得られるとともに、さらなるブラッシュアップの機会になります。
- ・多くの演習を体験することで学生の立場に立って学べるため、参加者自身のふりかえりの機会になります。
- ・演習で使われるテキストやシート類は、現実の教育の場面で役立てられるようになっています。

1 テキスト精読により理解を深める (テキスト;約100頁)		
テ キ ス ト 学 修	第1章…能動的学修とは 第2章…学修者から見た学びの技法 第3章…体験学修の方法と評価 第4章…能動的学修の実践(学修デザインの方法、能動的学修の運営、学修成果の評価) 第5章…新たな学びの理念と教職員の役割 課題…テキストを精読しさらに理解を深めるために理解促進テスト解答	
2 集合研修 I (基礎) 8月25日(土)9:30~17:30		
集 合 研 修 1	1. オリエンテーション 2. 能動的学修の重要性 3. 理解促進テスト テキスト内容の理解を深めるとともに理解促進テストの効果的な活用方法を体得 4. 学びの技法 ペアインタビュー、カード法、討議法など多様な教育技法の効果的な使い方について演習を通して学ぶ	グループ演習とふりかえり 今後に活かす学びの技法のマニュアル化 5. 学びの技法に関する各種事例の紹介 実践記録や映像等によって教室内外で行われる実践的活動の紹介および演習 6. ルーブリックに基づく自己評価 7. 課題 次回に向けた課題の設定と説明
3 集合研修 II (実践応用) 9月22日(土)9:30~17:30		
集 合 研 修 2	1. 学びの技法を活かした実践結果の演習 シラバスの一部を取り出し、特定場面を想定して、学びの技法を活用した実践活動の内容と結果の報告・演習 2. 能動的体験学修の授業デザイン ・講義形式 ・学内でのワークショップ ・学外でのワークショップ ・地域活動でのワークショップ	具体的な事例と映像を通して授業デザインの実例を学ぶ ・自校における実践の実例(討議・演習) 3. 授業デザインの具体策 ・テーマ設定、学びの到達目標設定、授業計画・評価基準の作成 ・多様な授業デザインの検討 4. ファシリテーターとしての役割と機能 ・討議、演習 5. ルーブリックに基づく自己評価 【個別相談】
4 集合研修 III (総合演習) 10月27日(土)9:30~17:00		
集 合 研 修 3	1. 総合演習 1 ・90分の通常授業のモデル演習 ・授業デザインの位置づけと目的 ・アイスブレイク→講義→グループ内の演習 全員参加による実践的演習、プログラムの進行、グループ演習、全体発表等各担当による	2. 総合演習 2 ・グループ演習→全体発表、ふりかえりと評価 3. 全体ディスカッションと総合コメント ・学内におけるリーダーシップの心得 4. ルーブリックに基づく自己評価 5. 修了認定証の交付と今後の活動 さらにブラッシュアップに向けて【個別相談】